東北地方

岩手縣下鮮かな手際の岩谷橋

岩手縣二戸部福岡町地内の岩谷橋は全國的に珍らしいアーチ木橋で其の堅牢なることは山口縣の錦帶橋にも優つておると佐藤縣土木技師は語つて居る名橋である、其土木學界に發表された所では、同橋は大正四年福岡町の土木請負業者故丹野五郎氏が一萬三千圓の工費で架けた長さ百メートル、高さ二十メートルのアーチ式木橋だが重量交通機關の頻繁な二十餘年後の今日まで微動もせず山口の錦帶橋、山梨の猿橋と共に近代土木學の粋を傾注してもなほ驚歎に値するもので技術上最も苦心したと見られるアーチの部分は木曾檜の二寸板を七枚積み重ねて巧みに曲折し南部大工の鮮やかな手際を見せ橋脚は九戸城址から採掘した城石を石灰と砂で二十餘メートルの高さに積み重ぬ近代土木の寵兒、鐵筋コンクリートを尻目に悠々その堅牢を誇つて居ると云ふ。

關東地方

宇都宮市の道路愛護運動

栃木縣宇都宮市では縣土木課と共同主催で七月十五日から一週間「道路愛護デー」を催し、道路を愛しませうと一般市民に呼びかけた、即ち初日十五日は朝から宣傳自動車隊が繰り出されて市内を巡回し

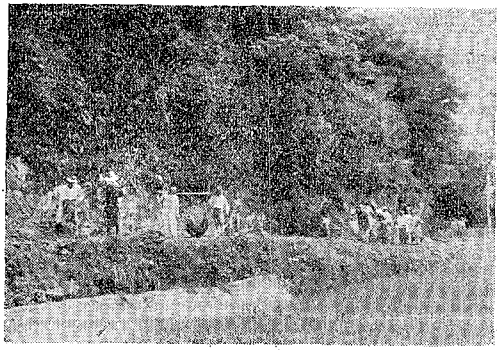
▽道路は清潔に致しませう▽下水の掃除は丁寧に▽道路で遊戯をせぬように▽道路の無斷占用は止めませう▽街路樹を保護しませう▽交通規則をよく守りませうとメガホンで宣傳したので多大の效果を收めたことである。

北陸地方

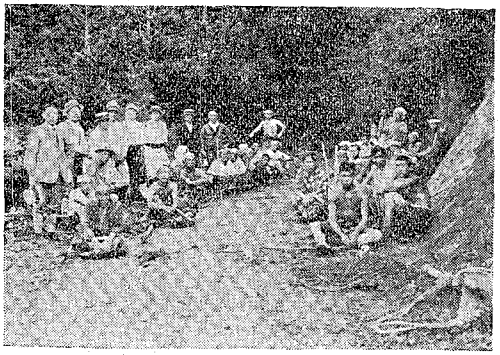
石川縣の道路愛護實施

昭和十二年七月五、六日石川縣珠洲郡西海村に於て道路愛護作業を實施す。本村に於ては初めての愛護作業なるも爾今毎年計畫的に春秋二回實施せむとするものなり。本村は能登の尖端頭部を覆ひ延長約二十五粁餘幅員最大六粁餘の細長き地形なり故に今回は其區域の一部に對し道路愛護作業の實施を計畫し即ち府縣道西海寺家線中西海村字狼煙同村字馬蹄間延長十一粁七百八十米及町村道字狼煙より同村字横山間延長一

粁六百米は何れも自動車不通の爲め主として幅員取擴めに重點を置き府縣道に在りては現幅一米乃至一、五米を二、五米に、町村道に在りては現幅一米の處之を二、二米に取擴め沿道に於ける障碍となるべき樹木を伐採し潰地に要する田畑、宅地、山林を無償にて切取り又は盛立をなし出動人員一日四百二十三人とし七月五、六日の二日間



西海村折戸地内



西海村高屋地内

を以て完成すべく計畫を樹てたるも作業の進展實績を顧みて益々意氣軒昂たるものあり作業の效果を徹底的に收めむか爲尙一日間作業を追加するの熱誠振を示したり。

然るに府縣道作業區間中珠洲郡西海村字狼煙より同郡同村字川浦間は急勾配にして五分の一乃至八分の一延長約二千米其の區間は一つの峠をなせり又字狼煙に於て府縣道より分岐し同郡同村字横山を經て同郡同村字川浦に達する町村道は同村字狼煙、同村字横山間は附近田地にして平坦部に屬しそれより同村字川浦間は殆ど山林にして其延長約一粁は峠をなし最急八分の一の狀態なり。

右愛護作業に當りては主管飯田土木出張所職員及珠洲郡西海村役場吏員尙其主管內の優秀なる道路常用工夫を派遣し夫々主擔を定め、作業指導の任に當り實施せり。

道路愛護デー實施作業計畫

一、作業路線名　府縣道石川縣珠洲郡西海村字高屋、狼煙間延長一〇、一八〇米

二、同　上　町村道同縣同郡西海村狼煙横山間延長一、六〇〇米

三、作業着手　午前六時

四、休憩時間　午前、午後一回宛二十分間

五、中食時間　正後より一時間

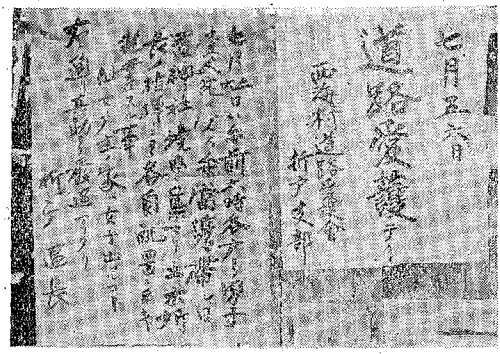
六、作業終了　午後六時

七、愛護會本部　西海村字折戸

八、同　支部　同　村字高屋

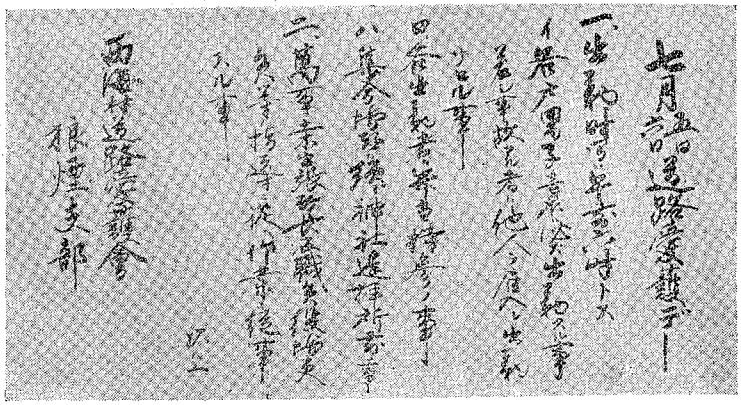
九、同　支部　同　村字川浦
一〇、同　支部　同　村字横山
一二、同　支部　同　村字狼煙

作業區間	一日作業人員	出動要領
部落名		
珠洲郡西海村字高屋	九〇人	高屋支部各戸に付男女一名宛
同郡同村字折戸	一四三	折戸本部各戸に付男一名宛



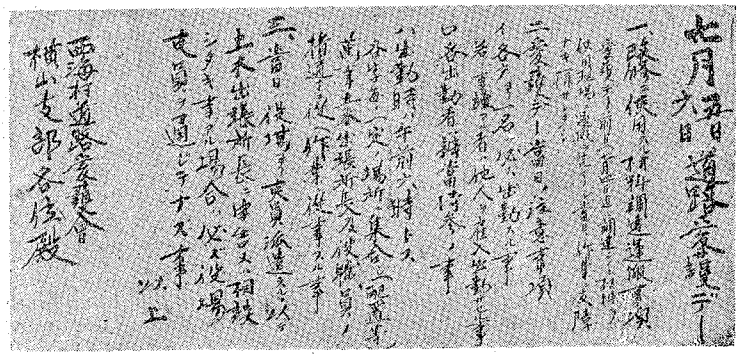
七月五六日
道路愛護デー
西海村道路愛護會
折戸支部

同郡同村字川浦　四五　川浦支部各戸に付男女一名宛



七月五日六日ハ道路愛護デー
一、當日ハ朝早ク午前八時ヨリ
イ、部落内ノ子供ヲ除ク外ハ必ズ出動スル事
名シ事故ノ者ハ他人ニ依頼シ出役サセル事
ロ、各出動者ハ各自ノ鍬ヲ持参スル事
ハ、集合場所ハ鎮守神社迄ノ距離ニ應ジ左記ノ通
二、萬一未帰還ノ場合ハ職務ニ殉ジタモノトシ扶助ノ途ヲ講ズル事
以上
西海村道路愛護會
狼煙支部

同郡同村字横山　六五　横山支部各戸に付男女一名宛



七月五日六日道路愛護デー
一、當日ハ午前八時ヨリ
イ、部落内ノ子供ヲ除ク外ハ必ズ出動スル事
名シ事故ノ者ハ他人ニ依頼シ出役サセル事
ロ、各出動者ハ鍬ヲ持参スル事
ハ、集合場所ハ鎮守神社迄ノ距離ニ應ジ左記ノ通
二、萬一未帰還ノ場合ハ職務ニ殉ジタモノトシ扶助ノ途ヲ講ズル事
三、當日ハ役場ヨリ出張員ヲ派遣スルノデ上本出張所長ノ指揮ニ從ヒ作業ニ従事スル事
以上
西海村道路愛護會
横山支部各位殿

同郡同村字狼煙　八〇　狼煙支部各戸に付男一名宛
計　四二三

東山地方

山梨縣下五湖中心の道路鋪裝事業

山梨縣では內務省から新任の藤原知事を迎へてから富士箱根國立公園に對する郡の觀光施設計畫が漸く軌道に乘り本年度から三年後のオリンピック大會までに風光明眉な富士五湖を中心とした道路の鋪裝を行ふことは決定した、藤原知事は七月二十七日國立公園內の道路の狀況及び既報の駐車場設置場所の實地調査を行つた。この結果籠坂峠より旭ケ丘を經て山中湖に至る道路を工費約九萬圓で着工することになり更らに明年度から明後年度にかけては延長して河口、本栖、精進、西湖方面に手を伸ばし周遊道路の完璧を期し嶽麓一帶の觀光地は道路の整備によつて宣傳すると共に今秋から實施しようとする縣外自動車から徴收する駐車料の問題も控へてゐるので觀光道路の整備に最善をつくすことになつた。

岐阜縣下國道改良の着工

總工費七十萬圓を投じ岐阜、愛知兩縣の分擔工事として架橋中の新木曾川橋はいよ〳〵今秋十月竣工の豫定だが、新木曾川橋から岐笠國道に聯絡する新國道（延長七百七十メートル、幅員十一メートル）は工費二十萬圓をもつて本年度事業として施工されることになり、木曾川橋取付道路の築造に着手したなほ堀津村地內における新國道と竹ケ鼻鐵道との交叉は竹鐵線を立體交叉の高架式にする計畫である。

東海地方

愛知縣下橋梁の復舊架橋工事

愛知縣では昨年七、八月の水害に對する土木事業の災害復舊を企て百四十萬圓を以て近く諸事業の工事を起すこととなつたがこのうち橋梁の建設計畫を見ると愛知郡日進村地內矢田川岩崎橋を鐵筋コンクリート庄內川名古屋、津島線の大正橋および玉野川高藏寺驛の東谷橋の兩橋を鐵橋、東春日井郡旭村地內矢田川瑞鳳橋を鐵筋コンクリートで架橋するのをはじめ海部郡飛田村庄內川前田橋、東春日井郡守山町、島居松村境庄內川松川戸橋、東春日井郡旭村地內矢田川の稻葉橋、同守山町大森橋などを一齊に木材で架橋し水害を蒙つた諸橋梁が面目を一新することになつた。

三重縣下待望の九鬼林道の完成

森林美と男性的な海洋美を擁して紀伊半島北部を坦々と延長十七キロ尾鷲町と鯨王國九鬼村を結ぶ縣林務課自慢の『九鬼林道』は去る昭和八年度に起工したもので爾來順調な進捗を見てゐるがいよ〳〵今秋十月には觀光と產業の處女道路が出現して地方民を歡喜させる、現在工事中の區間は尾鷲町大字行野浦地內風吹峠から同町大曾根浦に至る凡そ四キロで百名の人夫が動員されて竣工を急いでゐる。

津市内簡易鋪裝の施工

三重縣津市では大演習關係土木工事のうち幹線道路の鋪裝についてはまづ工費一萬九千圓を投じて丸之内本町線と岩田一色線の二道路をアスファルトで簡易鋪裝することゝなり、近日中に大日本鋪裝會社が請負ひ着工する丸之内本町線は都市計畫十字路から岩田橋に至る延長四百三十メートル、幅員七メートル餘、岩田一色線は岩田橋から縣立津中學に至る延長一千五百メートル幅員六メートルである。

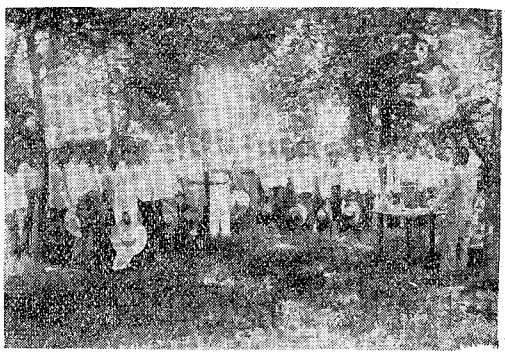
三重縣下伊賀の別天地は縣道開鑿の爲更生せんとす

三重縣名賀郡内伊賀赤目四十八瀧、山麓の奥地瀧川村大字長坂領通稱松茸山小場は交通頗る不便、電燈もなければ飲料水にもこと缺き文明の恵みから完全にノツクアウトされてゐる別天地であるが里人達はかうした長年の不遇をかこちせめて生甲斐のある生活がして見たいと昨夏全部落轉住の相談を纏めてをつたが最近はからずも縣道赤目瀧線の改修計畫によつて新線が同部落の西方四、五百メートルの間近に開設され部落との聯絡が極めて容易となつた上電燈線も縣道沿ひに設置され則單に引込み得ることになつたので、里人達は急に轉任計畫を放棄することに決し村當局に對し諒解を求めた、村當局でも種々な事情を考慮してこれを承認するとゝもに新たに同部落改善計畫を樹て村が助成金を交付してこの際急ぎ電燈の設備、道路の改修、飲料水施設などを行はせることになりこれで同部落民も永年住み馴れた桃源郷を永久にまもり得ることになつたのである。

近畿地方

奈良縣下最近に於ける道路愛護會狀勢

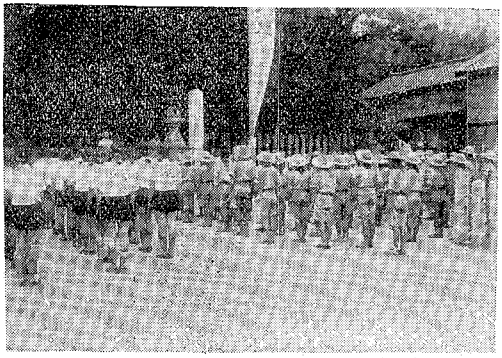
奈良縣に於ける道路愛護會は實施以來玆に三年を閲し現在團體數三〇七會員數二七、八三四人愛護道路延長一、〇五六六七二米にして管内全延長の八割六分に當り其の作業亦年と共に洗練せられ漸く其の成績の顯著なるものを視るに至る、卽ち初年度に於ては本廳又は土木出張所よりの熱心なる勸誘に依り單に義理的に又は隣村の御附合の意味に於て出役し其の作業振は御祭騒的のもの多く見受けられたるも、第二年度に於ては作業第一主義に進み、第三年の本年は道路愛護の精神を充分理解し概ね自發的に之が維持修理に努める傾向を示すに至りたるは誠に道路行政上慶賀に堪へざる處



柳本町青年團＝松浦土木課長講演ノ實況

なり。

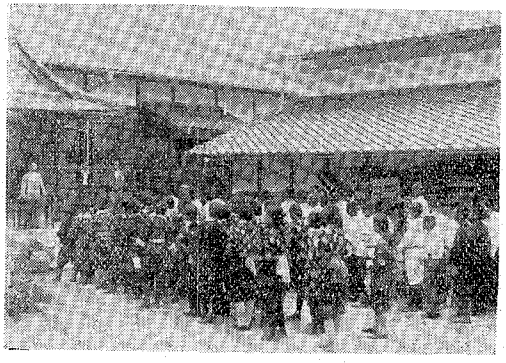
本年一月より七月に至る間に於ける道路愛護會及奉仕自動車の出役成績は別表の通にして朔風膚を剪き或は炎帝猛威を揮ふのとき、翩翻と飜へる愛護會旗の下に雄々しく作業する狀況は、誠に時代に副ふべき國民精神の發露なりと思考す松浦土木課長は赴任以來愛護作業日には出來得る限り激勵



東市村男女少年團＝松浦土木課長講演ノ實況

生等の愛護會に對し一々懇篤なる講演及實地指導をなされ、團員の等しく感激する所なり、此の熱心なる課長の指導に依り我が奈良縣の道路愛護會は今や大飛躍する階段に立ち、寔に今後の動勢に期待する所尠しとせず。

尙七月二十三日午後二時より奈良縣立圖書館樓上に於て、當支部主催のもとに、本課首腦者及各土木出張所長並に路面維持修繕擔當者等の二十七名會合し道路の改良、路面の維持道路愛護に就て、課長より物を聽くの會を開催し一同大いに得る所多く充に分に會の目的を達し閉會後は公園四季亭に於て、綠の杉の大木の幾本となく立ち並ぶ春日公園の芝草の園より湧れ來る涼風に浸り、優雅なる女鹿男鹿の姿を目のあたり眺めて松浦課長を中心に道路に對する懇談の盡きざりき。



田原村男女青年團＝松浦土木課長講演ノ實況

道路愛護作業成績（自一月—至七月）

土木出張所名	作業團體作業日數	作業人員	一日八時間作業として延人員
奈良	一月	一二三四五六七計	
	9		
	2		
	55		
月	9		
月	2		
月	3		
月	6		
月	86		
月	15		
月	2		
月	63		
月	11		
月	2		
月	5		
月	7		
月	105		
月	632		
月	32		
月	4,718		
月	361		
月	224		
月	69		
月	491		
月	6,527		
月	447		
月	18		
月	3,463		
月	211		
月	74		
月	46		
月	332		
計	4,591		

道路愛護奉仕自動車出役狀勢（自一月—至七月）

土木出張所名	臺數	作業延時間	運搬數量（單位立米）	一日八時間作業として換算臺數
高田	一月	3	1,214	472
	二月	3	1,117	432
	三月	6	1,180	388
	四月	4	674	247
	五月	3	1,094	418
	六月	3	986	276
	七月	3	753	471
	計	25	7,018	2,704
松山	一月	6	—	—
	二月	6	242	157
	三月	9	561	305
	四月	4	292	202
	五月	5	83	69
	六月	5	357	230
	七月	5	123	78
	計	41	1,435	1,205
上市	一月	5	—	—
	二月	6	133	112
	三月	7	178	163
	四月	8	252	309
	五月	7	368	302
	六月	8	196	120
	七月	4	200	115
	計	39	1,435	1,205
五條	一月	5	—	—
	二月	6	561	305
	三月	7	292	202
	四月	7	357	230
	五月	8	427	281
	六月	8	284	125
	七月	4	233	235
	計	27	2,154	1,378
三輪	一月	2	48	54
	二月	5	300	209
	三月	7	530	446
	四月	1	200	225
	五月	2	60	72
	六月	1	30	19
	七月	6	277	239
	計	24	1,445	1,264
計	一月	19	2,002	1,057
	二月	23	2,385	1,233
	三月	80	6,981	4,731
	四月	31	1,967	1,300
	五月	19	2,173	1,147
	六月	17	1,835	837
	七月	28	1,999	1,818
	計	222	19,342	12,123
奈良	一月	—	—	—
	二月	—	—	—
	三月	3	78	78
	四月	—	—	—
	五月	—	—	—
	六月	—	—	—
	七月	—	—	—
	計	3	78	78
高田	一月	—	—	—
	二月	—	—	—
	三月	—	78	—
	四月	—	—	—
	五月	—	—	—
	六月	—	—	—
	七月	—	—	—
	計	—	78	—
松山	一月	—	—	—
	二月	—	34.9	6.8
	三月	1	—	—
	四月	1	10	2.9
	五月	1	20	1
	六月	3	41.5	1.4
	七月	2	17	3.9
	計	13	123.4	15.2
上市	一月	1	—	—
	二月	2	38	2.3
	三月	10	135	10.0
	四月	—	—	—
	五月	4	67	4
	六月	1	10	1
	七月	—	—	—
	計	18	265	18.5
五條	一月	—	—	—
	二月	—	60	9.8
	三月	—	—	—
	四月	—	—	2.5
	五月	—	—	—
	六月	—	10	—
	七月	—	—	—
	計	—	90	12.3
三輪	一月	—	15	1.2
	二月	13	132.9	18.9
	三月	—	213	12.9
	四月	3	40	3.5
	五月	—	87	5.4
	六月	—	51.5	4.9
	七月	—	17	2.1
	計	16	556.4	48.9
計	一月	1	15	1.2
	二月	21	132.9	18.9
	三月	13	213	12.9
	四月	4	40	3.5
	五月	5	87	5.4
	六月	4	51.5	4.9
	七月	2	17	2.1
	計	50	556.4	48.9

中國地方

廣島縣下二號國道は名のみであると

廣島縣當田知事は七月五日から三日間廣島福山間の國道を視察されたが國道とは全く名ばかりで路面が狹まいのみでなく屈曲踏切が徒らに多く、故に安藝筋は備後筋よりずつと惡いので一日も早く改修したいものである、これに引返て縣道は至るところ路面改修が行き屆いてゐるやうに見受けた、と語られた。

山口縣下關市に於ける道路協議會

北九州產業道路綜合計畫協議會は八月十日內務省下關土木出張所で開催せられた、出席者は內務本省から佐藤土木局第二技術課長、鈴木內務技師列席、所長三浦博士司會、鮫島工務淺香庶務兩部長、中尾國道トンネル主師技師はじめ山口、福岡、佐賀、長崎、大分、熊本六縣土木部、課長および

關門兩市土木課長ら約四十名のシヴィル・エンヂニアが一堂は會し、まさに關門、北九州大躍進の方策を議するにふさはしい大評定となつた、會議は技術家らしい熱意とスピードで嚴しい幾署をものともせず、彪大計畫を一氣に決定した、卽ち

一、各縣における路線總延長、施工延長、工費は既報の通り決定、總工費一億三千萬圓、總延長二千キロ、幅員七メートル半―九メートル（都市計畫區域は十一メートル―二十五メートル）

一、右の中から超幹線道路一千キロ工費八千萬圓、十四年度起工、十ケ年計畫完成

決定、（この內譯は）▲山口縣＝岩國起點山陽道全部、宇部、小野田を通る縣道▲北九州總貫線＝門司―小倉―戸畑八幡、飯塚、直方―久留米―大牟田―熊本▲長崎行二十五號國道＝鳥栖―佐賀―武雄―長崎▲佐世保行三十三號國道＝武雄―佐世保▲北九州二號國道＝門司―小倉―八幡―福岡―鳥栖―久留米▲北九州東海岸線＝門司―行橋―別府―大分▲この中門司、小倉、戸畑、若松北九州四市を結ぶ海岸線は全然新設で海岸堤立、港灣計畫を同時に含む重要道路でルート未定來月初旬關係者會議決定。

尙之を縣別にすると左の通りであると傳へられて居る。

縣名	總延長	施工延長	工費概算
山口縣	五四六・二キロ	四八七・二キロ	二一、六六〇千円
福岡縣	六三・九	五五・四	四九、三五一
佐賀縣	二四〇・八	二〇八・七	一三、三七三
長崎縣	二〇二・六	一六三・八	五、八七四
大分縣	五二・〇	四九六・九	二三、〇八六
熊本縣	二三六・一	二一四・四	七、六四二
小計	二三四六・七	二二四・三	二〇、九四二
關門隧道	四・〇	四・〇	一〇、〇〇〇
合計	二三五〇・七	二三八・三	一三〇、九四二

山口縣下關彥間固定橋の着工

山口縣下關市埋立地と彥島を結ぶいはゆる關彥聯絡施設として總工費四十萬圓を投じ新設することになつた固定橋については市土木課において設計完成後準備を急いだ結果、九月末いよ〳〵着工、初年度工費十萬圓をもつて四ケ年繼續事業となし完成することになつたが、第一期工事は基礎をなす橋臺建設その他の下部工事から進めるはずで完成後の聯絡橋としてモダンな裝飾を施す意向である。

四國地方

高知縣下森林道路工事の進捗

高知縣土佐郡森村溜井森林組合では總工費三千餘圓を投じて三立、長和、松木野の各組合を橫斷し東端は同村宮古野に連絡されまた伊勢川を渡つて田井村上野と連絡する事となり名勝地笹ケ峯登山客も大杉驛より本山、田井に出で伊勢川通り溜井部落に入る者も增加して來た。

九州地方

福岡縣下福岡市內鋪道工事

福岡市内道路の本年度鋪裝工事は地元の寄附金もこのほどそれ〳〵取まとめを終つたので市土木課では八月下旬から一齊にお化粧に着手するが、路線は天神町交叉點、因幡町間幅員六メートル、長さ二百メートルをはじめ東中洲一、二、三丁目、南新地地内、今熊町地内、新柳町明康賣市場内、下蓮池町などで工費合せて約二萬圓、

唐津市内道路鋪裝に新工夫を凝す

佐賀縣下唐津市内七十米の道路鋪裝に新工夫を凝して施工した、夫れは全國的にも行はれたことがなく、これが成功すればコンクリートの道路鋪裝に劃期的な貢献を齎すもので、普通標準の鋪裝用コンクリートは配合一、三六厚さ二十センチで經費が半減するこの特殊混合練合せ方法は今までのセメント一、砂三、砂利六の割合すなはち一、三、六を無雜作に混ぜ合せてゐたものを、機械を使用して入念に特殊な技巧を施すもので期待されてゐる。

長崎縣交通網の完備要望

長崎縣生産力擴充對策委員會交通部では十一日午後一時から第四回交通部會を縣參事會室で第一回答申案を決定直に岡田知事に提出した、同答申案によれば産業の開發と最も緊切な關係にある重要路線の完成を目標として左の如き六大實行方法を可決、縣下交通網の完備を期してゐる。

一、重要路線の改修促進—長崎南田平線、同島原線、同野母線、佐世保三十三號國道、五島ならびに對馬の縱貫線の六線の改修を促進する。

二、鋪裝完備、佐世保相浦線、諫早、小濱島原線をはじめ主要路線五線の鋪裝を完備する。

三、地元負擔の合理化從來路線完成のため費用の二割乃至四割を地元で負擔せしめてゐたが、事業の促進をはかるため、今後は地元關係以外の目的で路線事業に着手する場合は出來るだけ地元の負擔を合理的に輕減する。

四、縣營バスの經營重要路線には出來る限り縣營バスを通はせ、かつ設備の改良をはかり、料金の値下を斷行する。

五、道路交通の保全—縣民に交通道德を涵養せしむるとゝもに道路照明に意を用ひること。

六、市町村道改修の促進。

大分縣下に阿蘇登山道路延長せん

阿蘇國立公園道路株式會社松島專務取締役の談に依れば、阿蘇登山道路を延長して玖珠郡飯田村から瀨ノ本部落を通過して大分、別府方に拔ける遊覽觀光道を計畫し、本縣土木課と交涉したうへ工事に着手することになつた、これまで交通の便に惠まれなかつた飯田村では擧村一致その實現を要望して隱れた玖珠郡の史蹟をも廣く紹介されるものと期待されてゐると云ふ。

宮崎縣下延岡市城吊橋着工

延岡市外北方村字城と瀧下をつなぐ五箇瀨川に架けられた城吊橋は一昨秋の暴風によつて崩潰したためその後渡船によつて聯絡してゐたが災害復舊工事として國庫補助の下に工費六千三百八十圓で架橋することになり八月二十日着工した。